

三稜会懸賞論文

稲葉真弓賞特集

三稜会会報別冊



平成29年8月1日 第66号別冊

発行 三稜会
(津島高校同窓会)
事務局(津島高校内)
〒496-0853
津島市宮川町3-80
電話 0567-28-4158
発行人 横井 義一



第7回 稲葉真弓賞 審査結果発表

テーマ 『正義』

応募総数 508点

参加校 杏和高校 津島東高校 津島北高校 美和高校 清林館高校
五条高校 海翔高校 稲沢東高校 愛知黎明高校 津島高校

入賞作 7点

〈最優秀賞〉1点	津島高等学校	1年	吉川 佑奈さん
〈優秀賞〉2点	杏和高等学校	2年	久留宮航輝さん
	津島東高等学校	1年	杉山 純平さん
〈佳作〉4点	清林館高等学校	2年	朱宮 里美さん
	津島東高等学校	2年	穴見 悠さん
	津島高等学校	1年	下川 千晴さん
	津島高等学校	1年	岩原 優菜さん



(表記学年は応募当時のもの)

表彰式 平成29年9月24日(日) 午前10時30分～ 津島高校三稜館(体育館)

入賞された皆さん、おめでとうございます。また、ご応募いただいた皆さん、ありがとうございました。

第1回からの最優秀賞と優秀賞作品は、三稜会ホームページに掲載してあります。

三稜会ホームページ <http://www.sanryokai.com>

【協賛団体】(株) ヨ シ ヅ ヤ
虎ノ門法律経済事務所
(株)日本一ソフトウェア

クローバーTV・エフエムななみ77.3MHz
(株)三和スクリーン銘板 (株)原ネームプレート製作所
協和交易(株)

【後援】(株) 中 日 新 聞 社

『アンネの日記』は、第二次世界大戦中の1942年6月12日から1944年8月1日まで、当時13～15歳の少女アンネ・フランクの書いた日記です。ナチスドイツのホロコースト（大量虐殺）の中で、オランダに逃れてアムステルダム（アンネ）の隠れ家に身を隠したフランク家の悪夢の2年間に書かれました。

戦後に出版され、世界中で大きな話題となりました。

文芸春秋の呼びかけに応え全国の女子中・高校生が寄せた1464編の感想文の中から、1967年の秋、当時三年生の旧姓・平野真弓さんの

作品はみごと第2位に入賞しました。この入賞が、真弓さんが後に作家への道を歩み始める大きな後ろ盾になったことと思います。

真弓さんは世界の平和を愛するアンネに

共鳴し、「一人の日本のアンネに生まれ変わろう」と決意しました。何と大きな志でしょう。これはまさに、真弓さんの

「アンネにおくる詩」 ＝50年前に稲葉真弓さんが書いた「正義」＝

会長 横 井 義 一

「大正義」と言えるのではないのでしょうか。物騒な最近の世界情勢のなかで真弓さんは、「日本のアンネに生まれ変わろう」と共鳴する仲間（の誕生）を呼びかけているように思えます。



稲葉真弓さんの略歴

愛知県海部郡佐屋町（現：愛西市）生まれ。

1968年（昭和43年）3月 愛知県立津島高等学校卒業。

その後東京デザイナー学院名古屋校を卒業し、名古屋市内の建築デザイン会社に勤務しながら、同人誌「作家」に作品を発表する。

1973年 『蒼い影の痛みを』で女流新人賞を受賞。これを期に上京し、編集プロダクションに勤務しながら作家活動を本格的に始める。

1980年 『ホテル・ザンビア』で作品賞を受賞。

1992年 女優・作家の鈴木いづみとサクソ奏者の阿部薫を描いた実名小説『エンドレス・ワルツ』で女流文学賞を受賞。

1995年 『声の娼婦』で平林たい子文学賞（小説部門）を受賞。

この頃から三重県志摩半島の小さな湾で見たキジの美しさに魅せられ、土地を購入して別荘を建て、定期的にこの別荘で過ごすことが多くなる。

2008年 志摩半島での生活を題材とした短篇小説集『海松』で川端康成文学賞を受賞。

2010年 『海松』で芸術選奨文部科学大臣賞（文学部門）を受賞。

2011年 『半島へ』で谷崎潤一郎賞を受賞、中日文化賞を受賞。

2012年 『半島へ』で親鸞賞を受賞。日本大学芸術学部教授に就任。

2014年4月29日 紫綬褒章を受章。

2014年8月30日 膵臓癌のため、東京都品川区のN T T東日本関東病院で死去。64歳没。



○ 抜粋

アンネにおくる詩

幾世紀に渡る歴史のあしあと——
一九三九年 苦悩の中で描いたその跡を
数々の障壁を乗り越えてきた歴史
激しい動乱の嵐の下 耐えつづけ
変らぬ明るさで守り育てられていま
私は あなたの
輝かな瞳を宿し
あなたの血を分けた魂を抱き
世界のために生きようと思う
あなたが 不朽の心をもって
民族の平和のために生きたように——
あなたが死に向かって
立たれた極限にさへ
わたしの生命は存在してはなかった
なのに いま
あなたの残しだった
不滅の勇氣と 気高い誇り
そして優しい愛は
時の襞を覆い隠し
何千何万人の胸深く
あなたの生涯を刻みつけてゆく

あなたと 新しく訪れる年月のため
わたしの身をあらゆる屈折をもって
あなたが生きた日々に連なってみよう
そして、あなたが願った民族の平和を
青く煌く地球の上で蘇らせ
わたしは 全世界の平和のために
一人の日本のアンネに生まれ変わろう
あなたが愛した国
わたしの愛する国を結び
わたしは あなたの勇氣をもち
あなたの愛をもって
誇り高く 晴れやかに
平和のための
永いあしあとになるだろう

第42
『文芸春秋』社

高校時代の詩集（大学ノート）より転載

この作品は5冊目のノート 昭和42年
11月26日の欄に書かれています。「抜粋」
「S 42『文芸春秋』社」と書かれています。
す。おそらく、受賞後に書き写されたもの
のと思われます。

校庭で行われた表彰式の時に、「文学
少女がいるな」との印象を受けた、と
同級生の鵜飼保さんが語っておられます。

アンネにおくる詩

幾世紀に渡る歴史のあしあと——
一九三九年 苦悩の中で描いたその跡を
数々の障壁を乗り越えてきた歴史
激しい動乱の嵐の下 耐えつづけ
変らぬ明るさで守り育てられていま
私は あなたの
輝かな瞳を宿し
あなたの血を分けた魂を抱き
世界のために生きようと思う
あなたが 不朽の心をもって
民族の平和のために生きたように——
あなたが死に向かって
立たされた極限にさへ
わたしの生命は存在してはいなかった
なのに いま
あなたの残していった
不滅の勇氣を 気高い誇り
そして優しい愛は
時の襞を覆い隠し
何千万の人々の胸深く
あなたの生涯を刻みつけてゆく
あなたと 新しく訪れる年月のため
わたしの歴史を あらゆる屈折をもって
あなたの生きた日々に連なってみよう
そして あなたが願った民族の平和を
青く煌く地球の上で蘇らせ
わたしは 全世界の平和のために
一人の日本のアンネに生まれ変わろう
あなたが愛した国
わたしの愛する国を結び
わたしは あなたの勇氣をもち
あなたの愛をもって
誇り高く 晴れやかに
平和のための
永いあしあとになるだろう

第7回 稲葉真弓賞 受賞作品

正義から生まれる

津島高等学校

一年 吉川 佑奈

「正義」のとりえ方は十人十色、千差万別である。宗教的に神を信じ、それを正義として掲げる者もいれば、自分自身の判断を正義とみなす者もいる。一枚の絵を目にしたとき、感じるものが一人一人違うように。だからこそ、正義とは自分自身で納得するものであり、誰かに押し付けられるものではないと言える。ただし、その過程が間違っていれば、結論も確実に間違っている。「正」は正しさ。「義」は他人のために尽くすこと。人間自身が持っている本能のまま、自分の享楽のためだけに振るかざすものを正義とは呼べない。なぜなら、そこには「義」が存在していないからだ。正義という言葉の背後には必ず救われる誰かがいるのである。

動物同士がコミュニケーションをとるとき、その手段は種によって違う。犬であれば尻尾や鳴き声でコミュニケーションをとるし、イルカなどは超音波を用いたりもする。手段はどうであれ、

コミュニケーションのルールは集団によって違ってくる。例えば、動物園育ちのものを自然の群れ、もしくは他の群れに交じらせるというのは困難な取り組みであることが多いという。成長の過程で然るべきときに身に付けておいたほうが良いことを習得しないまま育ってしまうと、仲間とのコミュニケーションがとれなくなってしまうのだ。結果、仲間として認識されず、コミュニケーションに入れない、ひどいときは敵とみなされ、攻撃されることもある。また、動物によつては、生まれたときから共にいたものしか仲間としない群れも存在する。にわとりがその一種だ。いきなり大人同士と一緒にすると大喧嘩が勃発してしまう。動物によつて違いはあるが、同種でも育ち方や習性によつてコミュニケーションをとるどころか、いざこざが起きてしまう場合もあるのだ。異種ならなおさらだろう。

だが、人間はそうではない。人間にはコミュニケーションをとるための手段がある。言葉として発し、理性を保ちながら相手を受け入れるだけの知性がある。文化が違えば使用言語も違うが、目で訴えかけ、身振り手振りを織り交ぜながらコミュニケーションをとることができる。日本にも方言があり、その土地土地で使われる言葉は全く異なるが、何とか自分の意図を伝えるこ

とだってできるのだ。誰だって話し合い、互いを理解することは決して不可能ではないのである。

「Dragon Night」という曲を知っているだろうか。二〇一四年に発表されたSEKAINOOWARIの楽曲だ。「今宵は百万年に一度、太陽が沈んで夜が訪れる日」というふうに始まり、ポップなメロディーに乗せられた圧倒的な世界観をもつ曲。この曲の中で一番注目したいのはその歌詞だ。「人はそれぞれ『正義』があつて、争い合うのは仕方ないのかもしれない」。この曲は第一次世界大戦中に起きたクリスマス休戦がもとになっているという説もある。クリスマス休戦とは、一九一四年一月二四日から二五日にかけて西部戦線各地で一時的に生じた停戦状態のことだ。この日、最前戦で対峙していた英独両国の兵士たちは塹壕を出て、共に戦死者の遺体を埋葬したほか、酒やたばこを交換したり、記念写真を撮影したそうだ。きっかけは、ドイツ軍最前線から「きよしこの夜」の調べが流れたことだった。イギリスにもドイツにも、自国を守るという正義がある。戦いがなされるとき、皆、自分の正義をもつて相手が悪い、相手をやっつけることこそが正義だと思っている。「だけど」と歌詞は続く。「僕の嫌いな『彼』も、彼なりの理由があ

ると思うんだ」。人間一人一人の考え方が、感じ方が異なるのは当たり前のことである。なぜなら、この地球上に全く同じ人間など存在していないからだ。顔つきが違う。髪の毛の長さが違う。趣味が違う。「私」という人間はこの世に私しかない。私の考えを、右隣に座る彼は否定するかもしれないし、左隣に座る彼女は肯定するかもしれない。意見の相違から、彼と彼女が言い争うことになるかもしれない。しかし、それが普通であると私は考える。考え方が違っていさかいが起きるのは当然のことだ。だが、たとえ百万年に一度だとしても、互いを理解しあうことができたなら、共に手を取り合い歌える日は必ず来るのだ。

正義は自らで納得するもの。だが、その過程を間違えてはいけない。自分の考えを振りかざすだけでは、本当の「正義」とは呼べない。十人十色、千差万別だからこそ、人間はどこかで自分の正義を信じていたいのだ。そのために相手を否定しなければならぬという考えに至る。そこから争いが起こる。しかし、人間には言葉がある。自分の身体をいっぱいに使つて、意志を伝える術がある。相手には相手なりの考えがあつて、理由があつて、それを受け入れ、また、自分の思いを受け入れてもらう。頭ごなしに否定するだけ

では何も変わらない。互いを理解し、尊重し合うことで受け入れられた相手、自分は、きつと救われる。笑顔になれる。小さなきつかけでいいのだ。私たち人間には己の正義をもって奇跡を起こせるだけのちからがある。それぞれの正義が一つとなり、一夜限りの奇跡を起こしたあの日のように。

「アンパンマン」から見える正義

杏和高等学校

二年 久留宮航輝

正義とは、道理・道徳にかなって正しいこと。正しい筋道。社会全体の幸福を保障する秩序を実現し維持すること。辞書を引いてみるとこれらの意味が出てきた。「正義」という言葉がもっている本質は何なのだろうか。誰がどこで行うのだろうか。私たちの身近に正義は存在しているのだろうか。

「アンパンマン」の生みの親として知られる絵本作家のやなせたかしさんの言葉を紹介していこう。

「正義って、普通の人が行うものなんです。政治家みたいな偉い人や強い人だけが行うものではない。普通の人が、目の前で溺れている子どもを見て思わず助けるために河に飛び込んでし

まうような行為をいうのです。」

「正義」と聞くと私はマンガに出てくるようなヒーローを思い浮かべる。強い者が弱者のために戦う。正義を執行できるのは周囲より優れた力を持つ者だけだ、とついつい私は考えてしまう。だがやなせさんは、「普通の人」と語る行為の中にも正義は存在する、と語っている。たとえ力を持たなくとも、誰かのために行動することが、正義へとつながっていくのだ。

「正義とは実は簡単なことなのです。困っている人を助けること、ひもじい思いをしている人に、パンの一切れを差し出す行為を『正義』と呼ぶのです。」

やなせさんは第二次世界大戦で砲兵として中国に駐留していた。「正義の闘い」だと信じていたものが、戦後、侵略戦争だと知った。全ての正義が相対化されていくなかで、絶対的な正義とは何かと自分を問いつめていき、突き当たったのが飢えに苦しんだ兵隊時代の記憶だったという。そこから「自分を食わせて人を救う」ヒーローが生まれた。例えばA国とB国が戦争状態にあったとする。A国にはA国の正義があり、B国にはB国の正義がある。つまり、これらの正義は立場によって変わるのだ。相手国を攻撃することではない。困っている者、飢えている者に食べ物を差し出す行為は、立ち場が

変わっても国が違ってても、正しいことには変わらない。だからアンパンマンもバイキンマンを殺そうとはしない。バイキンマンもバイキンマンなりの正義を持っているからだ。

アンパンマンは自分の顔をちぎってひもじい人に渡す。この設定は、やなせさんの中にある「正義を行うときには、自分が傷つかずにはできない」という考え方から生まれたものだ。海で溺れている人、誤って線路に転落してしまった人などを救出しようとした人が亡くなってしまった、という事故が過去に何度かあった。人助けには命を失ってしまうリスクが存在する。東北大地震の被害を受けた福島原発の除染作業員もその一例だ。彼らの敵は、視覚や嗅覚で認識することは不可能な、恐ろしい力を秘めている放射能だ。彼らは日常的に放射能被爆の危険性にさらされながらも、震災前の人々の生活を取り戻すために日々奮闘している。これらの人々は、自分の命を顧みず、危機的な状況に陥った人を助けようとする。「どうしてもやらなければならぬ」という強い使命や覚悟が、彼らをつき動かすのだ。

私には、授業中に騒がしかった友達に対して注意をした際、「うるさいなあ」と言われた経験がある。自分は正しいことをしたはずなのに、なぜ非難され

なければならなかったのだろうか。やなせさんは、「正しいことをする場合、必ず報いられるかというと、そんなことはなくて、逆に傷ついてしまうこともあるんです。傷つくかもしれないけれど、それでもやらなければいけないときがある。」と語った。つまり私はそんなに大きなものではないが、正義を行ったのだ。それゆえに、私は非難された。だが、私は正しいことをした、という強い信念を抱いている。正しいことを行うことこそ正義なのだ。

ここで、「正義」について考え直してみよう。正義というものは誰でも行うことができるものなのだろうか。私はできると考える。アンパンマンは、顔が汚れたり変形したりするとジャムおじさんに頼ることしかできなくなる。しかし、いざというときには勇敢に戦う。私たちも同じだ。人間は非常に弱い生き物だ。だが、先程も人助けの例を挙げたが、我々人間は、使命感を感じたら真っ先に行動することができる。誰でも立派なヒーローになれるのだ。

現代の世界の様子を見ると、イスラミックステートなどによるテロ行為が世界各地を脅かしている。彼らは自ら命を犠牲にし、「人間爆弾」となり、多数の人々が集まる場所で自爆する。彼らはテロ行為を彼らの正義の名の下に行っているが、その正義は深い悲し

みと憎しみを生み出すことしかできない。私が考える正義は、困っている人や助けを求めている人に寄り添い、勇気づけ、笑顔にするものだ。

私はこの先、社会の一員になっていく上で、自分が理想とした正義を全うすることが出来る人間になりたい。アンパンマンのアニメの主題歌の中に、「アンパンマンは君さ」という歌詞がある。人助けは誰にでもできる。正義を貫くことも誰にでも可能である。きっとそのような想いがこの歌詞に込められているのだろう。誰でもアンパンマンになれるのだ。

「正義の在処と守り方」

津島東高等学校

一年 杉山 純平

昨年起こった非常に痛ましい事件を、今でも覚えている人は何人いるだろう。戦後最悪となった、相模原障がい者施設殺傷事件で、十九人に及ぶ入居者が一人の男の歪んだ正義感によって殺害された。いささか不思議に思うのだが、この事件、さすがに話題にならなすぎだと思うのだ。十九人の罪のない人が一度に殺害されたのに、それどころか犯人を擁護する者まで現れた。犯人の言葉を聞いた人たちの中で、その言

葉に納得してしまった人が少なからずいたのだ。

僕たちは集団で生活しているから、個人の意思と、集団の意思、その両方を我慢したり実行したりする。家族、友人グループ、学級、部活動、僕ら学生はこれらの集団において生活しているが、いずれの集団においても、争いは起こるものだ。いじめは学生生活をはじめ、社会人になってからもついて回るだろう。

いじめと相模原障がい者施設殺傷事件は直線的につながっているのではないだろうか。

小学校に在学していた時の話。僕の学年とその上の学年は、特別支援クラスの子と生活を共にしていた。長い人だと保育園から中学卒業までの付き合いとなる同級生だ。印象的な出来事があったのが、小学生の時の学習発表会での劇の発表中の話だ。一つ上の学年の発表中、知的障がいのある女の子のところでセリフが止まってしまいう場面があった。止まってしまって、誰かが何か助けを差し伸べたわけではないし、その時の冷たい空気はよく覚えている。結局そのまま劇は進んでいったのだが、何か引っ掛かったのだ。その子は前から先輩方からあまりいい接し方をされていない印象があったのだ。が、何か困難な状況に置かれたとき、

普段の行いが如実に表れるものだと思う。僕たちは、先生と同級生で協力して、一緒に行動するときはみんな協力してきたし、いい結果を導き出すための過程で、特別支援クラスの生徒とうまく協力してやる方法を見つけようと努力してきた。一緒にできることとできないことはどうしてもあるので、カバーしあった。

それは障がい者に限った話ではないはずだ。健常者と障がい者の違いは、誰にでもある。人との違いと何ら変わりはないはずだ。僕達健常者は日常の基本的な行動が支障なくできるから健常者と呼ばれていて、医療的な分類、主に手当てを受けるための行政の都合でできた分類であって、人としての価値が変わるわけではないはずだ。その認識が日本は薄いと思う。だから、世界はもっと広くて、広い心を持つべきだと気づかなければいけないと思う。容姿も文化も過ごしている環境も違う。ちっぽけなことに囚われていたら、息苦しい。世界中の人の中には、件の殺傷事件の犯人と同じ考えを持っている人が少なからず存在しているけれど、日常で感じる一人ひとりの違いから認めていくことを、僕自身努力していきたいと思う。そこを認めているから友達だってできるし、信頼だって生まれる。

僕のことを嫌だと思っている人がいるだろうし、僕自身、苦手な人もいる。昔からうまく付き合っていくことができない人もいたけれど、ぶつかりながらも向き合おうとしてきた。辞書には、正義っていうのは、不正をこらす、正しい道理と記されているけど、誰かを排除することで不正も取り除かれるなんて考え方、横暴すぎる。あいつは敵であいつは味方という考え、持ちたくない。敵を排除していくうちに、周りに誰もいなくなってしまう。僕も含めて、いろいろな人が世の中にいる。それは当たり前のことだし、集団の中でどう弱点をカバーしあっていくか、どう活躍していくかが重要だと思う。価値観の違いでぶつかり合ってしまうことも仕方ないことだけれど、違いを認めてみんなでオールライトと言えるのが理想だ。どうしても納得のいかないことだってある。勉強や運動だけで人の価値が決められるのではないし、ましてや、抱えるハンディキャップで人として正しいとか間違っているかなんて決められるものではない。だから、相手が気に入らないから排除するっていう考え方もあまりにも横暴だし、勿体ないことだと思う。その理由は、人との出会いをないがしろにしてしまうことがあるからだ。今までの日常で体験してきた人との対立の中で、すべて

が悪いことだったとは思えないから。

昔は仲が悪かったけれど、今は交友関係があるという友人はいないだろうか。実際僕にはいる。たえ時間がかかったとしても、分かり合えることもある。すぐに捨ててしまつては、得られるものも得られなくなる。自分自身の正義のために、多くを失うなんて悲しすぎる。正義は人それぞれあると思う。でも、そこに人の尊厳を踏みにじることが含まれてはいけなあと思ふ。これは僕自身の正義だ。正義はつぶしあうものではなくて、分かり合うためにあるものだと思いたい。

このことを実行するために何が必要か考えると、人に対する思いやりという結論に至った。思いやりを持って接したとしても、すべてがよい結果に結びつくとは限らない。実際傷つくこともあった。でも、本当に困ったときに助けてくれるのは、そうやって思いやりを持って接してきた人たちだ。人それぞれに正義があるとしても、それが人を思つたものでなければ、ただ孤独を生むだけになるだろう。仮に何かが手に入っても、空虚なものだろう。ただ、正義の対義語は不義と辞書には記されているが、僕の思う正義ではないから、あの人は不義を働いているなんて決めつけてはいけなあと思ふ。社会の規範やルールを犯したら法律で裁か

れる。ただ、今生きている人で、裁かれる必要がないのに裁かれている人が大勢いるのは、事実としてある。これがなくならないから、次々に増悪の連鎖が生まれ争いが絶えないのだと思う。人と人が違うことを認めることは、一人ひとりの正義を認めることにつながるはずだ。法律は社会に住むすべての人にあるべきものだと思うけれど、それが人の尊厳を奪うようなものなら、僕はそれに全力で「ノー」を突きつけるし、法律云々ではなくまず、僕達自身が考え、行動しなければならぬはずだ。「誰かがやってくれる」とか、「自分には関係ない」なんて思わずに、一緒に考えてほしい。毎日の生活で、心の片隅で少しずつでもお互いを思つて考えていけたなら、分かり合えなかつた人とも分かり合えるかもしれない。喧嘩して仲直りできなかった人とも、また分かり合えるかもしれない。誰かが傷ついた時には、思いを口にしてあげることも必要になるかもしれない。でも、普段の生活では口に出さなくても、どんな時でも、心の片隅に人を思う心を持続していきたい。これが僕の正義の守り方だ。

審査委員会講評

応募作品全体を通して

今回も例年通り、多数の応募作品をお寄せいただき、まことにありがとうございました。稲葉真弓賞(三稜会懸賞論文)を地域貢献の一つの形として認知していただいたものと存じ、関係者一同喜びに堪えません。さて、今年度のテーマは「正義」

でしたが、応募作品に顕著な特徴がみられました。やなせたかし氏の「アンパンマン」を事例として引用した作品が実に多かったのです。高校生の柔軟かつ多様な発想を引き出そうと、あえて抽象的なテーマを毎年提示してきましたが、ここまで見事に揃ったことは過去にありませんでした。このことは、現代の情報化社会が画一化の傾向を持つことを意味します。これはある意味仕方のないことかもしれません。しかし、ここで高校生の皆さんに考えていただきたいのは、自己の作品を顕在化させるにはどうしたらよいかということです。やや高度な挑戦になるかもしれませんが、多数派よりは少数派、一般であるよりは個別を狙うのは当然ではないでしょうか。そのためにはテーマを見た時、応募作品の傾向を想像することも大切でしょう。では来年度も力作の数々を期待しています。

上位入賞作品について

正義から生まれる

今、世界で軽視されがちな思考がこの作品の中に見られます。「正義は相対的なものである」と「それでも接点を追求せねばならない」という思考がそれです。ポップスの歌詞と第一次世界大戦の事例も、今目的であると同時に知性の幅の広さを感じさせます。高校生という立場を超えた社会性が十分に認められる作品でした。

「アンパンマン」から見える正義

圧倒的多数の応募作品が引用した「やなせたかし」「アンパンマン」でしたが、やはりこのテーマにふさわしい事例であることは間違いありません。詳細に及ぶ事例の紹介から、筆者自身の日ごろから問題意識を読み取ることができました。「誰もが実行できる絶対的な正義」という着想には思わず頷かれました。

正義の在処と守り方

相模原障がい者施設殺傷事件に題材をとったこの作品は、圧倒的な説得力がありました。「小論文としては論拠よりも主義主張に偏りすぎてはいないか」という懸念もありましたが、共感する声が上回りました。歴史や社会に目を向けて主張を裏付ける事例を探索し、より小論文らしく構成する方向へ発展させてほしいと思います。

至宝 平野真弓さんの大学ノート公開

第1回 高校1年生編 ～乙女心の変化を追って～

稲葉真弓（旧姓・平野）さんの遺品の中でひとときわ人目を惹きつけるのが、高校入学と同時に書き始められた大学ノート群でしょう。その数は三十数冊に及びますが、在学中に書かれたものは6冊です。詩から始まり、短文、短歌、短編、長編等へと時代と共に傾向も変わっていきます。でも、その中身はほとんどが未公開です。ノートの中は、数々の輝かしい授賞作品群を生み出すに至る、真弓さんの成長過程を辿ることが出来る宝の山と言えるでしょう。

津島高校同窓会（三稜会）に頂いたこの宝の山を外から眺めるだけでなく、その中身を公開し鑑賞していただくべきだと思います。第1冊目は入学した1965年（昭和40年）4月上旬に始まり、翌年の4月3日で終わっており、丁度1年生の間に書かれた107頁・96編の作品集です。今回はその冒頭の『願い』と末尾の『お母さまのはなし』の作品を軸に、その間の乙女心の変化を追って選んでみました。

遺品展示コーナーは「高20回生 稲葉真弓さん 文学の軌跡」と名づけられました。今回は、その「文学の軌跡」のスタート部分の紹介です。今後、年代を追って公開してまいります。

願 い

神様 どうか あたしに しあわせの星を
とらせて下さい

そして あたしは あなたの為におりましよう
神様 どうか あたしに あなたのその白い 階段
を のぼらせて下さい

そして あたしは あなたのいる遠い国へゆきましよう

神様 どうか あたしと お父さまの愛の結び目
をもっと強く しばって下さい

そして あたしは お父さまの眠りの扉を静かに
ノックしましょう

神様 どうか あたしの愛する人に 私は ここに
いると ささやいて下さい

ねえ 神様 余りにも あの人は 眠り
すぎているんです 早く道を教えて

あげて下さい あたしは ここにいとと…

【真弓さんは、中学三年生の五月に
お父様を亡くされました】

思 慕

あなたに 手紙を頂いて 私は泣きました
あんまり あなたが やさしすぎたから

“悲しい時は 君には 手紙がいちばん薬だよ
明るい 手紙を書こうね”

こうあの人は 書いていました でも
今の あたしには 手紙のあなたじゃないあなたが
明るい声と笑いが ほしいの

“苦しい時には 手紙を書いてごらん 苦しい手紙
じゃなくて 明るい手紙をね”

こうあの人は 書いていました

泣きながら 返事を書くうと思いましたが
どんなに あたしが うれしかったか

どんなに 救われたか

でも 泣いたことだけは とうとう 書くこと
できませんでした

そして今 あの人の手紙が どれだけあたしに
とって 必要なものだったかをしりました



いのち

この言葉ほど あらゆる ことばの中で
つかみどころのないものは ないだろう
ある時は 晴れやかに いきいきと
ある時は 一しゅんの間に わからなくなる
それを 人々は いのち という

何ぜ それを いのち というのか
わたしには わからない
でも それが非常に 尊いものであるということ
それだけしか わたしは 知らない

ある時は 新しく 芽をふき
ある時は もえ
そして もえつきる
いのちとは 余りにも 気まぐれで
わたしは 時々 彼の正体を
見わけることが できなくなる

幸福(告白)
水色が好きだよ ってたったかう
会う約束りあった日に
きれいな絹の
水色のリボンで髪を結いました。
あなたはそれを見て
にっこり笑いました。り。
私はそれで一日中
幸福でした。
ワルツが好きだよ ってたったかう
二人でドナウ川のまなみを
かけました。
あなたはそれを胸に
踊らう。う。って言いました。け。
でもあたし
踊りませんでした
だって それだけで
とっても
幸福でしたから。
あなたという時のあたしは
いつも幸福でした。

親友に

お泣きよ 私の親しいお友達
私の胸で

そして 私の胸の動きを 生きていることを
しっかりと確かめるのです
生きているということほど あなたにとって
すばらしいことはないじゃありませんか
恋の 悲しい思い出なんか 忘れてしまいなさい
白い うその幻想も ついでに
取り除いてしまうのです
決して つらくは ありません つらいのは
今の 今だけですから

ほら 笑った!

太陽と月とが手をくんでおどっている
真珠色のやさしいあなたのほほえみ
人を信じられなくて悲しいといったその口びる
深い吐息をついた その口びる
でも 今は…
バラが泣く時 人は 一番美しいといえます
私は それを見たことはありません
でも もっと美しいもの
けなげな 私のお友達が 口びるが
笑っているのを 見ました

砂

さらさらと指の間からおちる青い砂

白いと素直にいいないのは

幼い日の思い出が

白い砂のそれと同じように清らかで

あまりにもおぼろげなものであるのかもしれない

音もなく両手から青い砂が

ぼんやりと線を描いて

静かに流れてゆきます

死んだような静から

再び生きたかのように：

何もなくなってしまった。

その両手の中には

白い空気が

思い出と一緒に残っているのです



桜貝

これ

思い出だよ

こう言って私の手の上に

そつとのせてくれた

ピンク色した桜貝

知らない国からとつてきた

夢のかけらのようでした

きみ

まだもってるかい

こうきいてくれそうなの

黒い瞳は もう遠い所

桜貝をもつてくことを

忘れてしまったって帰ってきそうなの

今日一日でした

思い出はもう遠い所

夢のかけらをもつていても

美しい夢は 見るのできなかった

私でした

この桜貝 そつと白い浜に

うずめようと思っています

幼い日々

あの日

雪の日

赤い手袋なくした昔のあの日

せめて道があるのなら

雪の日のおとしものさがしながら

もう一度幼い日の思い出たどりたい

あの日

春の日

歌まちがえた昔のあの日

せめて羽があるのなら

春の日のまちがえた歌の

シャープさがしにとんでゆきたい

あの日

雨の日

初恋した昔のあの日

せめてはじらいあるのなら

赤いかさにかくした初恋の

やさしい ひびきをとりにゆきたい

あなたへのひめつ

おやすみ

~~私のおやすみ~~

せめて あなたの眠りの瞬間まで

あなたのひとみを

みつめていることが出来るのなら

おやすみ

~~私~~

あなたの長いまつ毛のひとみに

私は明日への期待と愛うめ心をこめて

静かにゆかれよう

おやすみ

~~私のおやすみ~~

指切った指の

暖みも消えていきぬうちに

静かに眠ってほしい

もうこれ以上ひとめたくはない

一人で私に指のあたにかみか迷いぬように

誰れにも知られずどこでとめたいと思うかう

高校時代の詩集（大学ノート）より転載

知らぬ間に

知らぬ間に おとなになっっているかもしれない

何もかも 忘れてしまつて

夕やけばかり みつめていると

知らぬ間に

時間が止まつているかもしれない

あんまりねぼうをしすぎて

時計をまくのを忘れたら

知らぬ間に

恋をしているのかもしれない

だんだん淡い色が好きになつて

夕ぐれと朝もやだけしかわからなくなると



ある日

うずまく 春の

日だまりの中で

あなたは 遠い

夕日になった

うずまく 春の

かげろうの中で

私は 空へ

旅行に出かけた

同じ時に 出かけたはずの

私とあなたは

なぜか会わない

夕日が早い

風が早い

答えはわかつているはずなのに

あきらめきれずに

さがしつづけた

夕日はその日で

消えはするが

私はどんだん

とびつづけるの

とうとう二人は

遠くはなれて

思い出だけが

雲になつた

お母さまのはなし

お母さまは話します

夜汽車の汽笛が好きなのよと

お母さまのふるさとは

白い浜辺のつづく

鳥取の海辺なのです

風のつよい日

波の間から 忘れられたお人形の

鳴き声のような汽笛が

きこえてくるのだそうです

お母さまはかわいそうなすてられた

お人形が好きなのです

だから 私の悲しがりやの お母さまは

遠い夜汽車の むずかる声が

好きなのだ わたくしは思うのです



私の日記より抜書き

二月九日

三角関数なんてイヤダナ どこがおもしろいんだろう

いつも ゆううつ

空間なんてない方がいい あのひと私に へだたりがあることは

悲しいもの いつもあの人の心は 私の心でありたい

いつもほほえみを?おもしろくなくともいつも笑えるような
そんな人に…。女性にはほしきものの一つだって。

美しくなりたいナ、姿も心も。こんど生まれてくる時は、もっと
きれいに生まれてこよう。

どうしたら いいのだろう 私。わからない、すべて何も

わからない。

あの人に私の心に気づいてくれと言ったらよいのか、手をさし
のべたらよいのか、いったい私はどうすれば よいのか。

神さま、どうしてあなたはこうまで私を迷わせになる

のでございましょう。もし私を天の子だと思つて下さい

ますのなら どうか私に光をお与え下さいませ。あまり

にも あなたが手をさしのべて下さらないので私は偽善者
になつてしまひそうなのです。もし私が「主の祈り」を

千回唱えれば願いをかなえて下さいますのなら 私は
何をすても唱えてみましようし、あなたのために祈りま

しょう。だから神さま どうか 私に光をお与え下さい
ませ。

【選定徒然】

高校一年時の平野真弓さんは、ご両親
への愛、特に「お父さま」が「遠く」に
逝かれ、お父さまに対する愛と思慕に錯
綜した姿を、ノートに刻まれている。詩、
短文等96作品で目を引いたのが「色」が
多く用いられていることである。54作品
に16色登場する。最も多く用いられてい
る色は「白」である。35回登場するが、
それらは「お父さま」の形容である。棺
の中の顔、衣装、周りの花、明るすぎる
外（階段）等、真弓さんにとってあまり
にもショッキングで偶像化されたのであ
ろう。

高校に入学したばかりの時期からの一
年間であり、喜び、不安、期待等高校生
活に根付いた作品が多かろうと思ってい
たが、ここに紹介した作品の最後の短文
に唯一「生徒・平野真弓」が登場し、こ
れを読んでもくれている高校生の皆さんに
は親近感を抱けたのではないかと思う。

偉大な作家、詩人稲葉真弓の原風景に
触れ、的確な色彩描写、「ガラス」、「月」、
「夜」、「砂」等数々の賞を授賞した作品
そのものの原語が散らばっていたことに
驚嘆した。すべてはこのノートからだつ
たことを証明するに十分値するものであつ
た。